

学力向上をめざした 分かる授業の工夫
～言語活動の充実を通して～

1 設定理由

(1) 校内の研究・とりくみから

本校は平成28年度から3年間千葉県教育委員会の指定を受け学力向上（「学力・学習状況」検証事業）にとりくんでいる。基本的なことを確実にを行うことにより、学力の向上につなげるとりくみである。なかでも各教科共通で、「書く」ことにとりくんでいる。

(2) 生徒の実態から

I C Tの活用により、生徒の社会に対する興味関心は高まっている。しかし、表面的な楽しさを求め、学力の定着には至っていない現状がある。生徒の反応や意欲だけでなく学力の定着を確実にするために言語活動、特に書く活動に力を入れながら授業展開することは学力の向上につながると考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

(1) 表現活動（書く活動）を計画的・継続的に授業に取り入れることにより、相手に分かるように伝えるにはどのように書くことが有効であるかを考えるようになり、一人ひとりの表現する（書く）力が育っていくであろう。

(2) 表現活動（書く活動）を計画的・継続的に行うことにより、事象に対する理解度が増し自ずと学力が向上するであろう。

3 研究内容

(1) 言語活動の充実のために、調べ学習や発表会等を行い、書く活動を積極的に取り入れる。

(2) 表現活動を伴う学習を計画的・継続的に取り入れ、生徒の表現活動にどのような変化があったかを分析する。

4 結 論

(1) 研究の成果

ア 仮説（1）について

- ・一人ひとりの表現する力（書く力）は、徐々にではあるがレベルアップしてきている。
- ・書くことに対する生徒の意識が単に書くという行為ではなく、相手に分かるような書き方に変化している。

イ 仮説（2）について

- ・自分で考えたことを文章に表したり、言葉に表したりする技能が伸びてきているので今後学力向上につながると考える。

(2) 今後の課題

- ・表現活動（書く活動）を継続的に行うための工夫・改善

1 研究主題

学力向上をめざした 分かる授業の工夫 ～言語活動の充実を通して～

2 主題設定の理由

(1) 校内の研究・とりくみから

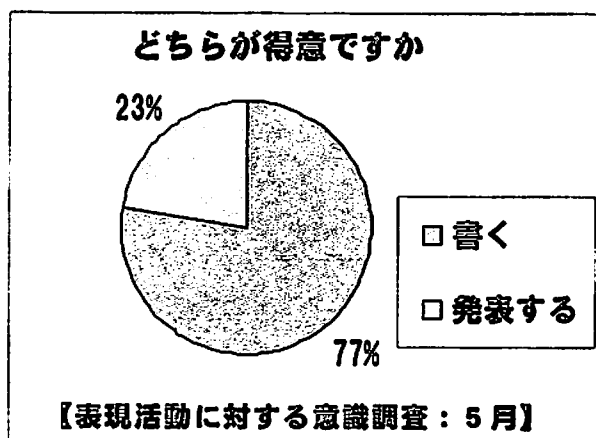
本校は、平成28年度から3年間千葉県教育委員会の指定を受け学力向上（「学力・学習状況」検証事業）にとりくんでいる。具体的には（1）授業規律の徹底（2分前着席・学力向上五箇条の徹底）（2）授業の改善（少人数指導の充実など）（3）学力向上の時間設定（4）ちばっ子「学力向上」総合プランの活用（家庭学習の充実、学習サポーターを活用したきめ細やかな指導など）を中心にとりくんでいる。特に、学力向上五箇条の徹底では①授業のはじめと終わりの挨拶をしっかり行う②正しい姿勢で無駄話をせずに集中して、授業に参加しノートをしっかりとる③授業に関係ないものを出さない④話を聞くときは、話をしている人に注目する⑤指名されたら「はい」と返事し、立って大きな声で発表することを学校全体で行っている。

全国学力・学習状況調査の分析・課題として、国語ではポイントを押さえながら読むことが苦手で読解力に課題がある。また、「読む」「書く」活動の不足と語彙力に課題があるため各教科で改善するためのとりくみを行っている。以上の点を受けて、社会科では学習課題に対する予想やまとめ段階で、自分の考えを具体的に「書く」ことに重点をおいたテーマ設定（調べ学習から新聞づくりや報告書づくり、さらには発表会）を行いとりくんできた。

(2) 生徒の実態から

本校の生徒は社会科、特に歴史分野への関心が高い。とりわけICTの導入と活用により、その傾向は一段と高まっている。しかし、表面的な楽しさを求めることが強く、知識の定着という面からみると、大きくかけ離れたものとなっている。社会科に対するアンケート調査を実施したところ、以下のような実態が見えてきた。

表現活動に対する意識調査を見ると、発表することよりも書くことを得意とする生徒が77%と全体の4分の3を占めている。この表現活動（書く活動）への自信は、自分の考えを書いたり資料の内容をまとめたりすることであり、相手にわかるように書くことよりも、ただ単にまとめたり書いたりすることが得意という傾向を示している。第三者に分かるように要点を、まとめて書



くという点については難しさを感じ、実際に表現できない状況がワークシートやノートから判断できる。表現活動の中でも書くこと・発表することでは「書く」活動が高次元ととらえている。生徒の反応や意欲だけでなく、学力の定着を確実にするために言語活動、特に書く活動（考えを書く時間を意図的に設定する）に力を入れながら計画的・継続的に授業展開することは学力の向上につながると考え、本主題を設定した。

3 研究のねらい

生徒を取り巻く社会は、日々変化している。特にグローバル化の進展とともに少子高齢化にともない生産年齢人口の減少や人工知能（AI）の進化により、予測困難な時代を迎えている。このような時代を生き抜くために、「生きる力」を身につけさせることは、重要となる。今回の学習指導要領の改定では、言語活動の充実により思考力・判断力・表現力などを育成することの重要性が指摘されている。

さらに「学力の三要素」として、①基礎的・基本的な知識・技能の習得②課題を解決するための思考力・判断力・表現力③主体的に取り組む態度（学習意欲）と言われている。

「児童生徒の学習評価の在り方に関するワークグループにおける審議のまとめ」として中央教育審議会初等中等教育分科会の教育課程部会で初めて学力の三要素という言葉が使われた。これからの時代に求められる力、とりわけ社会を生きる子どもたちに「生きる力」や「確かな学力」を育むことは、教育にとり不可欠な要素となっている。

従って、「学力の三要素」の中の②課題を解決するための思考力・判断力・表現力に注目し、さらには本校の課題である表現力を身につけること、特に書くことに重点を置いた指導に着目し実践を行った。社会科における「書くこと」とは、事象や資料からどのようなことが読み取れるか、自分の考えを分かりやすくまとめて書くことととらえる。こうした活動を行うことにより、表現力が身につく、ひいては学力向上につながると考える。

4 研究仮説

- (1) 表現活動（書く活動）を計画的・継続的に授業に取り入れることにより、相手に分かるように伝えるにはどのように書くことが有効であるかを考えるようになり、一人ひとりの表現する（書く）力が育っていくであろう。
- (2) 表現活動（書く活動）を計画的・継続的に行うことにより、事象に対する理解度が増し自ずと学力が向上するであろう。

5 研究内容

- (1) 表現活動の充実のために、調べ学習や発表会等を行い、書く活動を積極的に取り入れる。
- (2) 表現活動を伴う学習を計画的・継続的に取り入れ、生徒の表現活動にどのような変化があったかを分析する。

6 研究実践

仮説（1）について

表現活動（書く活動）を計画的・継続的に授業に取り入れることにより、相手に分かるように伝えるにはどのように書くことが有効であるかを考えるようになり、一人ひとりの表現する（書く）力が育っていくであろう。

(1) 授業実践

〈展開例1〉 1年地理分野 「私たちの地球と世界の地域構成」より

1 題材名 国名や国旗から世界をみると・・・

2 目標

- ・資料から国名・国旗の成り立ち等を調べることができる。（資料活用の技能）
- ・世界のさまざまな国名・国旗からわかることを考察し、まとめることができる。

3 授業仮説

調べ学習は、自らが行動を起こさなければ何一つ進展することができない。生徒にとってハードルの高い学習に追い込まれることにより、自己解決力や判断力を求められるようになる。調べたことをまとめ、レポートとして表現することにより、相手に分かるような書き方を意識するようになるであろう。

4 展開 (3/5)

◎努力を要する生徒への手だて

過程	時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価	資 料
見 出 す	5	1 本時の学習課題をつかむ。 学習課題：国旗や国名には、どのような意味が隠されているのだろう。	・国旗に興味をもたせるため日本の国旗を提示し、国旗が何を表しているか予想し発表させる。 ・日本と最も関係の深いアメリカ合衆国の国旗を提示し、本時の学習課題を設定する。	国旗 (日本) (米国)
調 べ る	30	2 学習課題にもとづき調べる。 ・世界各国の国旗や国名の意味を個々に調べる。 調べる内容 ・国名の由来や意味 ・国の場所と首都、人口 ・国旗の意味 等 調べる方法 ・PC ・教科書 ・資料集 等	・一人ひとり（学年82名）の調べる国が重ならないように、希望する国を事前にアンケートの中で把握し、スムーズに調べ学習に移ることができるようにしておく。 ・コンピュータ室でPCを利用し、それぞれの国を調べさせる。 ◎支援員と事前に打ち合わせをし、PCの使い方や調べ方の分からない生徒を中心に、支援の分担と支援の方法を確認しておく。PCが難しい場合は、教科書や資料集を使いまとめさせる。 ○PCで調べワークシートにまとめることができたか。 (観察・ワークシート)	ワークシート PC 教科書 資料集
深 め	10	3 調べた内容をワークシートにまとめる。	・国旗の色にも意味があるのでまとめる際は、必ず国旗はカラーでか	

〈展開例2〉 1年地理分野 「人々の生活と環境」より

1 単元名 人々の生活と環境

2 目標

- ・世界各地の人々の生活と環境に関心をもつことができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・世界各地に住む人々の生活を気候の面からとらえ、説明することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・分布図やグラフから気候の特徴を読み取ることができる。
(資料活用の技能)
- ・自然環境の特色とそこに暮らす人々の生活の変化を理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 授業仮説

世界の気候帯や気候を調べることにより、人々は自然環境を生かしてどのような生活(衣食住)を送っているかが理解できるであろう。さらに、調べたことをレポートにまとめる活動を通して、相手に分かるように伝えるにはどのように書くことが有効であるか考えるようになり、一人ひとりの表現する(書く)力が育っていくであろう。また、理解度も増すことになり、学力も自ずと増すであろう。

4 展開(7時間扱い)

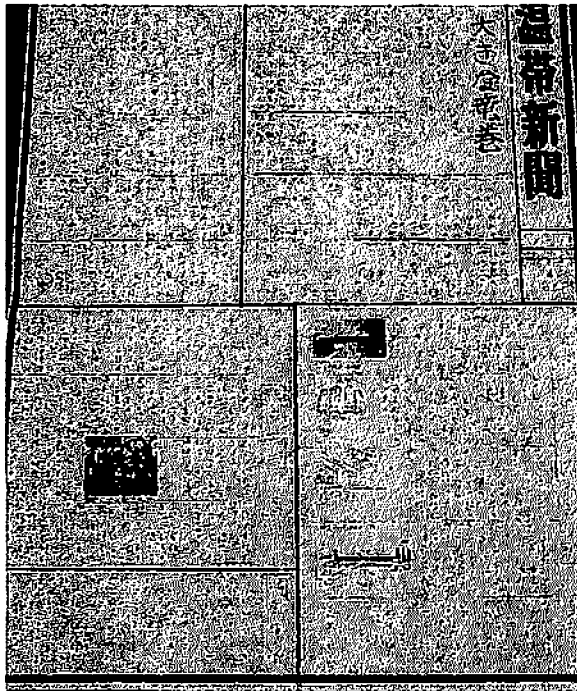
◎努力を要する生徒への手だて

過程	時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価	資料
見出す	50分 (1h)	1 本時の学習課題をつかむ。 学習課題：それぞれの気候帯では、人々はどのような暮らしをしているのだろう。 ・調べる気候帯 熱帯 乾燥帯 温帯(温暖湿潤気候) 温帯(西岸海洋性気候) (地中海性気候) 寒帯 冷帯 高地の気候	・乾燥帯や熱帯・寒帯地域の写真を 見せ、日本との違いを発表させる ・気候帯によって、人々の暮らしに 違いがありそうなことから、本時の 学習課題を設定させる。 ・五つの気候帯の分布や雨温図の見 方・書き方を、教員がおおまかに 説明することで、各班ごとの調べ 学習がスムーズに行えるようにす る。 ・学級を7グループ(1グループ4 名)に分け、グループごとに調べ る気候帯を決めさせるとともに、 班での分担を話し合わせ、次回か らの調べ学習がスムーズに進むよ	写真 (乾燥帯) (熱帯) (寒帯)

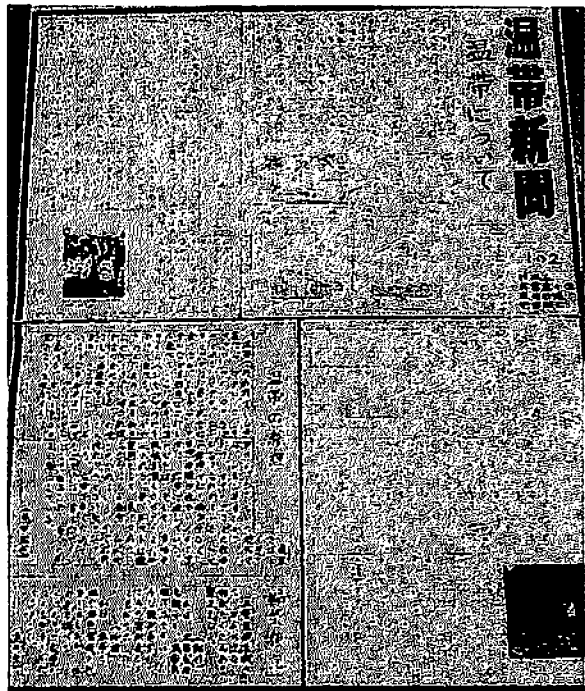
			うにする。 ○ 世界各地の人々の生活と環境に関心をもつことができたか。 (観察・ワークシート)	
調 べ る	100 分 (2h)	2 学習課題に対して調べる。 ・調べる内容 気候帯の特徴 気候帯の分布 生活(衣・食・住)等 ・調べる方法 資料集 教科書 図書資料 タブレット 等 	・各班ごとに、図書資料などの読み物資料を中心に、一人一つの内容で調べ学習を行わせる。 ・調べる方法を図書資料に限定し、事前に図書館司書と打合せを行い本校図書室だけでなく近隣・千葉県内の図書館から必要な資料を集め生徒に提示する。 ・一つの班に最低でも図書資料は2冊用意し、その他に教科書や資料集を使い調べるように指示する。 ・必要な資料がない場合のみ、教師用のタブレットから調べさせる。 ・雨温図や分布図、衣服、住まいなどのグラフや図は、紙面に書き添えるように指示を出す。 ◎どのように調べてよいのか戸惑っている生徒に対しては、個別に調べる方法や資料を提示する。 ○分布図やグラフから、気候の特徴を読み取ることができたか。 (ワークシート・新聞の紙面)	資料集 教科書 図書資料 タブレット
深 め る	100 分 (2h)	3 調べたことをまとめる。 ・まとめ方の注意 レイアウトを考える 内容を厳選する 自分の考えを書く 図やグラフを入れる 等	・グラフ用紙を、一人ひとりに配布し、調べたことをまとめさせる。まとめる際の注意点を確認した上で作業にとりくませる。 ・班員4人の紙面をもって、一つの新聞を作るので、全体のバランスを考えて新聞を完成させるように指示する。 ○自然環境の特色とそこに暮らす人々の生活の変化を、理解すること	グラフ用紙 ハサミ のり

			ができたか。 (観察・作成した新聞の紙面)	
まとめあげる	100分 (2h)	4 発表会を行い、学級全体で共有する。 発表のしかた ・あいさつ ・調べた項目の説明 ・質疑応答 ・感想発表 ・あいさつ 発表方法や使用するもの ・掛け地図 ・プロジェクター ・気候新聞 聴く側 ・ワークシートにメモをとる ・分からない点は質問する	・1班12分程度の説明とし、班のリーダーに司会進行をつとめさせることで、会がスムーズに進むようにする。 ・発表の際には、必ず地図でどの地域に分布した気候帯（気候）であるかを説明させる。 ・ワークシートにメモを取りながら説明を聞かせる。 ○世界各地に住む人々の生活を気候の面からとらえ、説明することができる。 (観察)	ワークシート 世界地図スクリーン プロジェクター 気候新聞
まとめ（単元全体のまとめ）： 地域により様々な暮らしがあるが、気候との関わりが深く衣食住は工夫されている。				

【生徒作品】



【班で作成した気候新聞】



【班で作成した気候新聞】

【授業後の生徒の感想：ワークシート等から抜粋】

- ・世界には地域によって、気温や特徴、衣食住などさまざまで、おもしろい。また、赤道に近い地域や遠い地域で環境の変化を知ることができました。
- ・各班のまとめ方が上手だった。自分が新聞づくりに携わり、あらためて新聞を作ることが大変だと実感したからこそ、新聞の完成には「達成感」を感じることができたと思った。さらに自分で調べて、まとめ、書いたのにより世界の気候に興味や関心をもてるようになりました。
- ・他の班の発表を聞いて、自分の言葉で話していたのすごいと思いました。自分は発表の時自分の言葉で話をするのがたいへんで、意見を聞かれたとき、どういう対応をすればよいのかわからなく、とまどってしまった。
- ・いろいろな気候の衣食住が分かりやすく書いてあった。新聞を作るとき、わかりやすさを意識して書くことができた。
- ・他の班の人たちも、自分の言葉でまとめたり書いたりしていた。自分たちが発表している時も、しっかり聞いてくれ質問もしてくれた。調べてそれをみんなに分かるように書くことは難しかった。
- ・本などの資料から得た情報を自分の言葉に直すことが簡単なようで難しく、とても苦労しました。完成した新聞を見ると、自分はここまでできるんだととても嬉しかったです。何も見ないで分かりやすく伝えてくれたので自分もできるようになりたいと思いました。

仮説（２）について

表現活動を伴う学習を計画的・継続的に取り入れ、生徒の表現活動にどのような変化があったかを分析する。

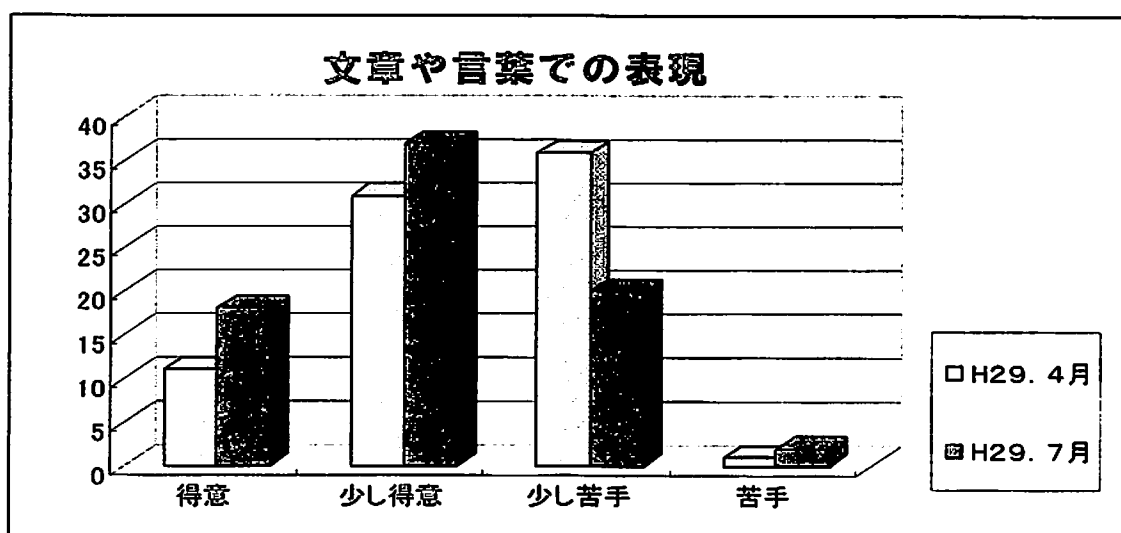
生徒の入学時から7月夏休み前までの書く活動をノートや作品から分析する。

【中1：A】

5月当初地理・歴史問わず単文での説明や感想が多い。例えば、「金属器が使われた。このころから、身分の差ができた。稲作をし、それを高床倉庫に保存した。」また、自分自身が何をしたいのか、どう感じたかを記録している。「中国の歴史を覚えたい。文明がいろいろなところでおきていてすごい。」など、具体的な記載ではない。しかし、相手に分かるように具体的に書くという指導を継続的に行い、7月夏休み直前では「教科書や資料集からそのまま移すより、自分の言葉にして新聞を作った方がみんなに分かってもらえることが分かった。」といったことが書かれていた。自分の言葉で書き発表することにより、聞いている人に伝わるということが分かった実例である。

【中1：B】

4・5月のノートを見ると、「知っている国や知らない国、たくさんの国がありましたが、一つ一つの国になるほどと思う意味があって国旗はその国の歴史や産業などを知る大事な資料のような物かなと思いました。」といった感想を書いている。この生徒は、社会科を得意としており、授業中もよく発表をする生徒である。7月の夏休み直前のノートやワークシートを見ると、「本などの資料から得た情報を自分の言葉に直したりするのが簡単ようで難しく、とても苦労しました。けれども完成した新聞を見ると、自分はここまでできるんだと、とてもうれしくなりました。」



7 成果と課題

(1) 研究の成果

ア 仮説(1)について

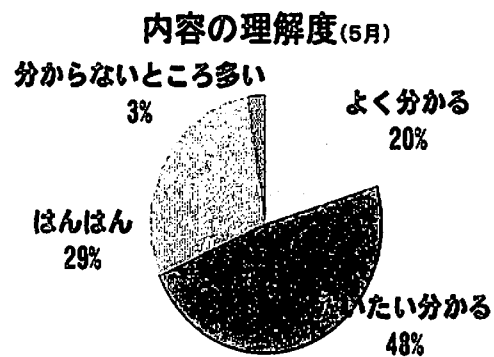
表現活動（書く活動）を計画的・継続的に授業に取り入れることにより、相手に分かるように伝えるにはどのように書くことが有効であるかを考えるようになり一人ひとりの表現する（書く）力が育って行くであろう。

- ・毎時間の学習課題に対するまとめや調べたことを自分の言葉で書くことを、計画的・継続的に行ってきたので、相手に分かるように書くことを意識するようになった。

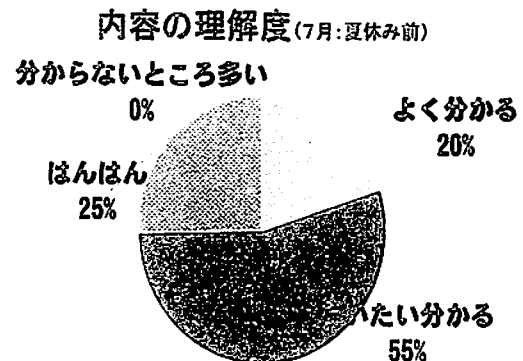
- ・「すごい」「よかった」といった表現を安易に使っていたが、「何が」「どのように」と具体的に表現する生徒が増えた。

イ 仮説（２）について

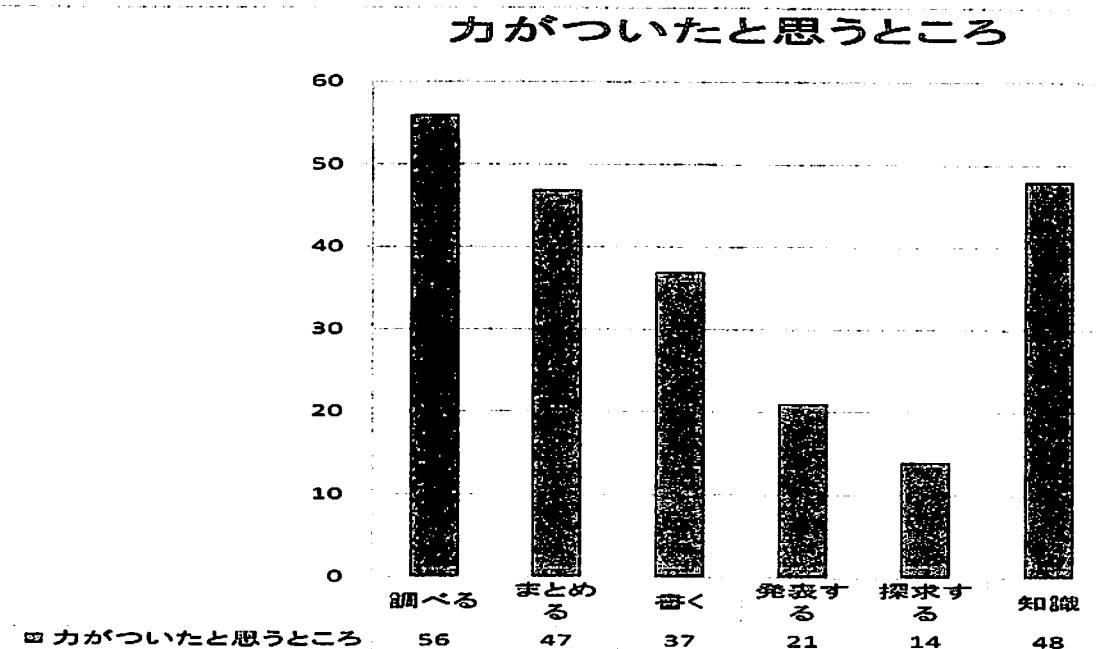
表現活動（書く活動）を計画的・継続的に行うことにより、事象に対する理解度が増し自ずと学力が向上するであろう。



【社会に対する理解度（５月）】



【社会に対する理解度（7月：夏休み前）】



- ・書くことにより自分の考えを整理する・まとめることができるようになった。
- ・知識・理解の追求が旺盛になった。
- ・教員の意識が高まり授業の工夫や改善が図られることにより、分かる授業につながる活動となってきた。

(2) 今後の課題

- ・表現活動（書くこと）のとりくみは、長期による継続的なとりくみで学力がどのように変化するかを研究するものである。従って学力との相関関係を証明するためにも、長期的で継続的なとりくみを行うための工夫と改善が必要である。

資料

学力向上五箇条

一、授業の始めと終わりの挨拶を
しっかりと行う

二、正しい姿勢で無駄話をせず
集中して授業に参加し、ノート
をしっかりとる

三、授業に関係ないものを出さない

四、話を聞くときは、話をしている
人に注目する

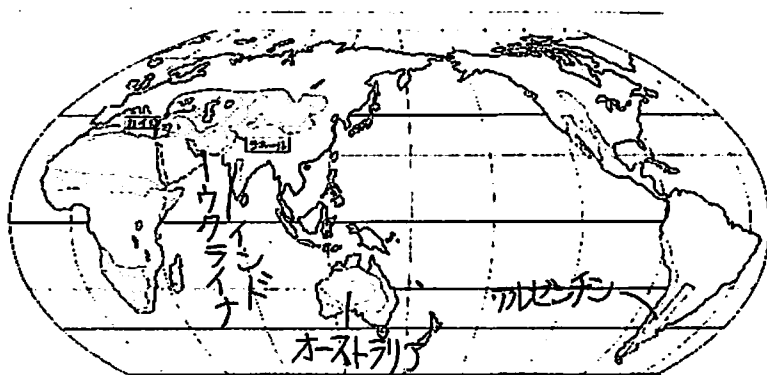
五、指名されたら「はい」と返事し、
立って大きな声で発表する

様々な家畜の利用

乾燥帯・ステップ気候の人々が飼っている家畜は牛・ヒツジ・ウマ・ラクダ・ヤギがいます。その家畜達は食用に乳を飲んだり、加工してバターにしたり、肉も食用として食べています。その中でもラクダは、水のまじったくない砂漠でも人を乗せて一日に100キロメートル以上歩けることができて、昔から大事にされてきました。その他にも移動手段として馬もいました。



の服は砂ぼこりがすばましく、そのズボンをきやすいように大きめの服をきています。頭にはいさぎつたり、砂嵐しをさえぎつたり、顔や寒いときなどに、顔や口をおおうことができません。



□ 砂漠気候 □ ステップ気候

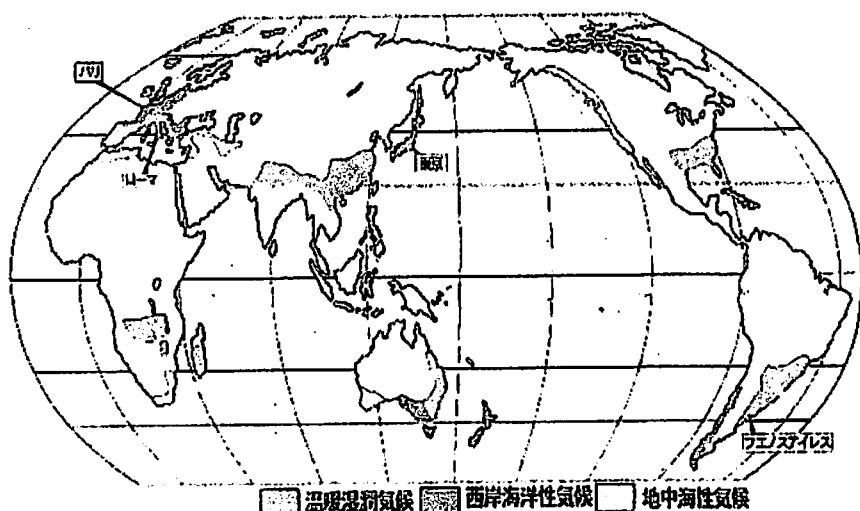
(乾燥帯分布図)

ステップ気候の近くに砂漠気候はあります。ステップ気候は主にウクライナやアルゼンチンの一部があり、乾燥帯は暑いので赤道近くに多く見られます。

温暖湿润气候の特徴

ぼくは温暖湿润气候の
 气候の特徴について調べ
 ました。まずこの气候の
 特徴は、四季の変化がは
 きりしていること、夏は高
 温で蒸し暑く、冬は低温
 であることなどがありま
 す。雨温図で見ると、
 気温、降水量とも2月か
 ら徐々に上がっていき8月
 をピークに徐々に下が
 っていくります。
 また、下の分布図で見
 ると、大陸の東側に位置
 している地域に多く見ら
 れます。この地域は季節
 風（モンスーン）の影響
 によつて季節の変化が現
 われます。
 モンスーンは、夏は低

緯度地帯の海洋側から高
 緯度地帯の大陸側に向か
 いて暖かく湿ったモンス
 ーンが吹くため、通過す
 る地域である大陸東岸は
 暑く、湿った气候となり
 、冬は夏とは逆に大陸側
 （高緯度地帯）から海洋
 側（低緯度地帯）に向か
 いて冷たく乾燥したモ
 ンスーンがその地域を吹
 ぬけるため、冷たく乾
 た气候になります。
 また、夏や秋にしばし
 は「タイフーン（台風）」な
 ど、温帯低気圧の影響を
 受けることも、夏の降水量
 が多い原因のひとつでも
 あります。
 气候の特徴をまとめる



と、各大陸の東側に位置
 している、モンスーンの
 影響で四季の変化が明ら
 かであり、年間の気温、
 降水量差が大きく、夏は
 高温、多雨。冬は低温で
 あることがわかりました。

大陸の東
 部の温暖
 湿润气候
 の分布図

てきたが、植民地化などの影響で密林が伐採され

てきたが、植民地化などの影響で密林が伐採され天然ゴムの農園や鉱山の開発が進んでいる。特に熱帯にふくまれる国ブラジルでは、土地開発のため、熱帯雨林の伐採が進んでおり、森林が減少している国一位となつてい



世界の国旗調べ

() 組 () 番・氏名 ()

国名 (ブラジル連邦共和国)

人口 (1億9840万) 人

人口密度 (22) km²



(国旗)

【国旗や国名の由来】

国旗…ブラジルの国旗は緑、黄色、青、白の4色を合わせたカラフル

なデザイン。それぞれの色には意味があり、緑はブラジルの森林、黄色は金

鉱物資源、白は平和、そして青はブラジルの空。真ん中のポルトガル語は「秩序と進歩」という意味で、その周りの星はそれぞれブラジルの州を表している。

国名…国名のブラジルは、樹木のバウ・ブラジルに由来するポルトガル人がこの

地方でヨーロッパで染料に用いられていたブラジルスオウに似た木を発見すると、それをもた同様に染料に使われていたことから、木をポルトガル語で赤い木を意味する「パウ・ブラジル」と呼ぶようになり、ブラジルの木のポルトガルへの輸出に盛んになったこともあり、16世紀中はこの地はブラジルと呼ばれるようになった。

〈ブラジル〉州…南アメリカ州 大陸…南アメリカ大陸

・南アメリカ州が一番大きな国。

首都…ブラジリア

社会アンケート調査

1 社会科の授業内容について

- ア よくわかる
- イ だいたいわかる
- ウ わかるところと、わからないところが半分くらいずつある
- エ わからないところが多い
- オ ほとんどわからない

2 社会科の地理と歴史ではどちらが得意ですか。

ア 地理 ——— 【理由】

イ 歴史 ——— 【理由】

3 自分の意見や考え（社会科）を書くことや発表することについて

①どちらが得意ですか

ア 書くこと ——— 【理由】

イ 発表すること ——— 【理由】

②小学校時、新聞など自分の考えや調べたことをまとめて書いたことがありますか。

ア ある ——— どのような場面で

イ ない

4 学校の授業以外に1日何時間勉強をしますか。

- ア 30分 イ 1時間 ウ 1時間30分 エ 2時間
- オ 2時間以上 カ 全くしない